



# 四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.9

【発行日】平成27年12月20日 【発行】四日市看護医療大学 庶務課  
〒512-8045 三重県四日市市董生町1200 TEL.059-340-0700 FAX.059-361-1401 <http://www.y-nm.ac.jp/>

## 大学院 看護学研究科看護学専攻(修士課程)



看護学研究科長 福原 隆子

少子高齢化の急速な進展、疾病構造の変化、医療技術の高度化など、医療・看護を取り巻く環境の変化に伴い人々の健康、医療に対する考え方も変化し、看護サービスに対するニーズは多様化・複雑化してきています。こうした変化に応じて、看護職者には、質の高い看護サービスの提供者として、高度な専門知識・技術を身につけ、人々の多様な健康問題の解決に積極的に取り組み、社会の要請に応えることができる人間力豊かな人材が求められています。

開設から5年目を迎えました本学大学院におきましても、「修士論文コース」と「専門看護師(CNS)コース」を設け、看護医療分野でリーダーシップを担う高度専門職業人および高度な専門知識を備えた教育・研究者の育成に取り組んでおります。

本大学院では、社会人として仕事を継続しながら学べるように、平日の午後6時以降や土曜日に授業を行うほか、夏期休暇などを利用した集中講義も併せて行っております。また、仕事をしているなどの理由により2年間の標準修業年限で修了が困難な院生に対して、3年間の長期履修制度を設けております。

現在、「修士論文コース」に11名、「専門看護師(CNS)コース」に3名の院生が、社会人として看護師、保健師、看護教員等の仕事を継続しながら、大学院での勉学、研究に励んでおります。院生のキャリアや活動のフィールド、入学時の動機などは個々様々ですが、全員に共通して言えることは、向学の志が高く、看護学の探索・探究への意欲に加え、自らの力を看護医療分野で活かし地域や社会に貢献したいという熱い情熱を持っていることです。看護力・人間力を磨き、看護のプロフェッショナルとして人々のニーズ、社会の要請に応えたいという院生の熱意、要望に十分に答えられるように、より充実したカリキュラムの提供、仕事や家事、育児等との両立に配慮したより学びやすい学修環境の整備にむけて尽力してまいります。

平成26年度の修士課程修了者は、「修士論文コース」の8名でした。本年度の入学生は6名で、「修士論文コース」が4名(看護管理学領域2名、母子支援看護学領域2名)、「専門看護師(CNS)コース」が2名です。

本大学院では昨年度入学生より大幅なカリキュラム改正を行い、下記の2コース3分野10領域体制を採っています。



コース	分野	領域
修士論文コース	看護学基盤分野	基礎看護学 在宅看護学 看護管理学
	産業看護学分野	産業看護学
	看護学実践分野	母子支援看護学 急性看護学 慢性看護学 老年看護学 精神看護学
専門看護師(CNS)コース		急性看護学(急性・重症患者看護)

平成27年度 四日市看護医療大学・大学院

# 入学式



平成27年度四日市看護医療大学・大学院入学式が挙行されました。4月2日(木)本学9期生及び大学院5期生の入学式が挙行されました。当日は、来賓として四日市市副市長をはじめ、四日市市議会議長、四日市市教育委員会教育長、市立四日市病院長、同副院長・看護部長、三重県看護協会副会長にもご臨席いただき、教職員、ご家族に見守られ学部生111名、院生6名の新生が新しい学生生活へとスタートをきりました。式典では、丸山学長からの入学許可宣言に始まり、学長告辞、来賓祝辞をいただき、学部生代表の船引理絵さん、院生代表の稲垣智哉さんが、これから始まる学生生活に向けて、新たな決意で入学宣言を述べました。

## 教員からのメッセージ

講師 三好 陽子

3年生の後期から臨地実習が始まり、学生は、今まで大学で学んだ知識をもとに対象者に沿った看護とは何かを実践の中で学ぶこととなります。看護の対象は「人」です。その人に沿った看護を提供するためには、その人自身をよりよく知り得なければなりません。「人」を知りたいと思う探求心やその人が置かれている状況の理解、そして、人の「こころ」が感じ取れる人間性が必要になると思います。さらに、4人に1人が高齢者という現代社会において、長く人生を生きて来られた方の人生観に触れることで、自身の人間的な成長にも繋がる学びが得られると思います。もし、困難なことがあったとしても、自分一人で悩みを抱えたまま苦しむのではなく、同じ目的をもった仲間達と協力できる環境を整え、臨地での実習指導者の方々とともに問題を解決に導くための方策を検討し、よりよい援助方法が導き出せるように支援いたします。困難を乗り越えた先に、看護の喜びや魅力を発見できると思います。



## 学友会

# 新生歓迎会

4月3日(金)新生歓迎会が実施されました。新生歓迎会は、充実した大学生活のきっかけづくりとして、学友会の主催により、4月のオリエンテーション期間中に開催いたしました。

当日は、3号館を会場にクラブ・サークルの紹介、入部募集、ビンゴ大会など様々な企画が実施されました。今回から用意されたプレゼント(ランチボックス)は、その見た目のかわいらしさから新生に大好評でした。また、会の最後に行われたビンゴ大会は手に汗握る白熱した企画となり大きな盛り上がりを見せました。



## 教育後援会役員会・総会

5月23日(土)、本学において、平成27年度教育後援会役員会・総会が開催されました。

当日は、秋葉会長をはじめ9名の役員、大学側は、丸山学長、豊島学科長、カーク図書館長、三宅事務局長を顧問とし、事務局を含め30名の会議となりました。秋葉会長のご挨拶で始まり、昨年度の事業報告および決算報告、役員選出、平成27年度の事業計画および予算案について審議され、すべて承認をいただきました。また、大学からは、昨年度の国家試験結果、就職状況、クラブ活動などの報告をさせていただきました。

また、質疑応答の時間を設け、参加された保護者の方々からの質問に対し、教育後援会顧問である学長、学科長より直接回答させていただきました。その他にもさまざまな意見交換がなされ、内容の充実した有意義な会になりました。



## 保護者懇談会

●9月26日(土)平成27年度教育後援会主催保護者懇談会開催●



教育後援会主催の保護者懇談会が9月26日(土)に本学で開催されました。

当日は、秋葉会長をはじめ53組73名の保護者の方々にご参加いただきました。

全体会では、豊島学科長より本学の教育の取り組みについて説明があり、その後の質疑応答では、学科長及び事務局より回答させていただきました。全体会後半は、市立四日市病院副院長の市原薫先生より、「日本の医療の現状と看護師による特定行為」のテーマでご講演を頂きました。終了後、学生食堂にて昼食を兼ねた懇親会が行われ、保護者と教員、または保護者同士が和やかな雰囲気の中、活発に交流する場面が見受けられました。懇親会後半は、キャンサーリボン実行委員会による「生活習慣とがん予防」の発表会が行われ、宮崎徳子特任教授を筆頭に、学生によるクイズを交えた発表は、短い時間ながら保護者の方々にも楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

午後の部では、アドバイザーの教員による個別面談が行われました。個人面談では、教員から学業を含めた現状や今後のアドバイスなどを聞くことができましたようです。

今後も保護者の方々にとって有益な情報を提供できる保護者懇談会にしていきたいものです。

# オープンキャンパス

平成27年度オープンキャンパスが、夏休み期間中の7月18日(土)、8月3日(月)、8月23日(日)に実施されました。今年度も三重や愛知を中心に東海地区から多くの高校生や保護者様にご参加いただき、参加者数の合計が昨年を上回る549名となりました。また、参加者の中には、熊本、島根、神奈川など遠方地域からの参加もあり、本学への関心の高さがうかがえました。

当日の内容として、午前中は全体説明会で、四日市市健康福祉部長から本学への支援制度について及び入試概要の説明を行いました。全体説明会終了後は、学生食堂に移動してバイキング形式の学食体験、午後は、模擬講義、看護体験実習、施設見学など自由にイベントに参加いただきました。今年度は、8月3日、23日に先輩ガイダンス、8月23日に保護者ガイダンスを新たに実施し、大学についてより深く理解いただけるように工夫しました。学生ホールでは「入試相談コーナー」や在学生と直接話ができる「先輩と話そうコーナー」を設け、入試や奨学金、大学生活など

について、熱心にスタッフの話に耳を傾ける姿が見られました。

参加いただいた方のアンケートを拝見しますと、概ね満足いただけたのではないかと思います。来年度も更に充実したオープンキャンパスにできるよう努めていきたいと考えます。



## 教職員研修の活動について

### ●平成27年度FD (Faculty Development) 活動について FD委員会委員長 豊島 泰子

FDとは、「教員が、授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みの総称」を示すもので、大学や大学院ではこの取り組みが義務付けられています。

本学では、平成25・26年度に授業評価の項目の見直しを図り、授業評価結果を専任教員に示し、その結果についてのリフレクションペーパーの提出を求め、リフレクションペーパーを含めた授業評価結果を図書館などに一定期間公開することで授業改善を図っています。また、特に学生の皆さんが講義時間以外の学修時間が確保できるよう授業内容及び授業改善等の取り組みを行っています。

本委員会の今年度の活動計画として、「教員の教育力の向上」を目指すべく、若手教員を対象とした教育力の向上のための研修会を8月に実施し、また全教員を対象に12月に研修会を実施することが決まっています。

今後とも本委員会では、全学的な教育の質向上に努めてまいりたいと考えています。

### ●医療安全に関するRCA (Root Cause Analysis) = 根本原因分析法研修会 学長補佐 宮崎 徳子

本学と臨床施設看護職員の参加のもと、8月24日(月)医療安全推進センター長石川雅彦先生を招聘して、上記研修会を開催いたしました。豊島学科長の実施に向けての努力と大学当局の支援のもと「医療安全に特化した教員と臨床指導者のリスクセンス」の育成を目的として実施することができました。

教育と臨床とのコラボレーションによるこれからの医療安全に対する教育の視点と、臨床における学生指導との共通視点で指導が必要になります。RCAはWHOにおいてもシステムレベルでの分析の必要性が述べられており、医療における安全性の責任を持たなくてはならないこれからの看護学生に対する基本的視点です。

今後は実際のトレーニングを実施できるように、医療安全力を持った教員の能力育成を積み重ねることが重要となります。

### ●平成27年度 ハラスメント対策研修会 ハラスメント対策委員長 山本 美佐子

平成27年度ハラスメント対策研修会は、平成26・27年度本学の新規採用教員を対象に「アカデミックハラスメントについて考えよう」のテーマで8月に開催し、ハラスメント対策に関する本学の対応と現状を委員長から説明した後、具体的な事例などを含め意見交換しました。また、10月に名古屋大学で行われた第3回東海ハラスメント相談研究会「大学におけるハラスメント相談セミナー」に、本学ハラスメント相談員(教員)が参加しましたので、「ハラスメント相談における被害者対応と再発防止について」の講演を中心に報告会を企画します。

### ●事務職員研修について 事務局長 三宅 真一

平成27年度の事務職員研修は、「学士課程教育の質的転換について」というテーマで8月5日(水)、6日(木)に実施されました。「教育の質的転換」、つまり従来の受身の教育から学生主体の能動的な修学への転換の趣旨を再確認するとともに、それを可能とする大学運営のあり方について、意思決定の仕組み、組織、財務、労務管理など広範囲に渡って認識を深めました。そこでの大きな課題は、教員と事務職員との連携、つまり「教職協働」です。現状では、大学が抱える諸課題は、課題毎に各種委員会にて処理されます。そこでは、審議だけでなく、完成度の高いプランの作成とその執行など実務面の強化が求められており、そのためには、教員と事務職員の連携・協力が不可欠です。これは、大学組織のあり方に関わる重要な問題でもあり、そのあり方について、さらに研修を進めていく予定です。

## 社会貢献活動

### ●みえアカデミックセミナー 2015 (2015.7.23)

『子育てが難しい時代だからこそ、妊娠期から親になることをみんなで支援しよう!』落合 富美江教授

7月23日(木)三重県文化会館レセプションルームにおいて「みえアカデミックセミナー2015」の公開セミナーが開催されました。三重県内の高等教育機関と三重県生涯学習センターが主催し、「心豊かな人生へのアクセス」という全体テーマのもと、各校がそれぞれの特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーを毎年夏季期間に開催するものです。

今年で21回目の開催となりました。

8回目の参加となる今回は、落合富美江教授が『子育てが難しい時代だからこそ、妊娠期から親になることをみんなで支援しよう!』というテーマで講演を行いました。

現代の結婚・出産・子育て事情や児童虐待等の実態を社会的に分析し、また地域と社会が連携することで、少子化問題の緩和につながることを分かりやすく説明しました。

落合富美江教授の穏やかな口調に会場内は終始和やかな雰囲気に包まれ、来場者の方々は熱心に聴講されていました。



### ●平成27年度四日市看護医療大学公開講座 (2015.7.26)

『臓器提供意思表示カードって知っていますか?』

「いのちのリレー」平田 典子先生 「臓器移植を経験された方からの語り」ファシリテーター久米 龍子教授



7月26日(日)じばさん三重 4F視聴覚室にて、平成27年度 四日市看護医療大学公開講座『臓器提供意思表示カードって知っていますか?』を開催しました。臓器移植コーディネーター平田典子先生の講演は、三重県における臓器移植についての厳しい現状や、なぜ移植が必要なのかなど、ドナーやドナーの家族のさまざまな想いを織り交ぜての内容となりました。

続いて臓器移植を経験された方の語りでは、久米龍子教授のファシリテートにより、当事者にしか語りえない貴重な体験を伺わせていただくことができました。

アンケートでは、「カードについては知っていたが、どのような臓器がどのように提供されているのかわからなかった。今回知る機会ができてよかったと思った。」「今まで、それほど興味をもっていなかったが、今回平田先生のお話と移植したご本人からのお話を伺い、よく理解できた。特にご本人からのお話は実体験であるため、非常に分かりやすい内容であった。」など貴重なご意見をいただきました。



### ●高齢者向け生涯学習プログラム2015 (2015.9.8)

『認知症の予防に向けて』福原 隆子教授

今年度、初めて実施することになった高齢者向け生涯学習プログラム「認知症の予防に向けて」を9月8日(火)に本学30A教室にて開催いたしました。

当日は、近隣にお住まいの方々を中心にご参加いただき、本学大学院看護学研究科長である福原隆子教授から、認知症の仕組みや日頃の生活の中で取り組める簡単な予防方法などについてわかりやすく講演し、クイズや学生によるコグニサイズの実演も織り交ぜながら楽しくお過ごしいただきました。

ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。



## 平成27年度 臨地実習について

本学は、平成24年度の入学生から新カリキュラムが導入され、4年目を迎えました。今年度の臨地実習は、4年生は、3年間で既習の知識と技術を統合・応用し、さまざまな看護場面における看護実践能力を高める目的で統合実習が5月12日から2週間実施されました。学生は、それぞれの領域において各自で課題を見つけ、看護についてさらに深めることができました。次いで6月には選択科目の地域看護学実習I、II(保健師課程)、8月には選択科目の助産学実習(助産師課程)が実施されました。2年生は、夏休み明けからコミュニティケア実習、基礎看護学実習Iを行いました。学生は、病院を中心として保健所、企業、健康増進施設の指導者の方々から丁寧な指導を受けながら、各施設で緊張しながらも真剣に実習に取り組んでいました。3年生は9月14日から各論実習が開始され、平成28年3月4日まで母性、小児、成人、老年、在宅、精神の領域における看護を学びます。教職員は、学生が臨地実習を通して看護専門職として成長できるように見守っていきたいと思います。今後とも皆様のご支援をお願いいたします。

教育推進・学生支援センター長 学科長 豊島 泰子

### 実習体験記(基礎看護学実習I)

古橋 奈夕

今回の実習で私は、初めて1人の患者さんを受け持たせていただきました。1週間という短い期間ではありましたが、患者さんの気持ちを考え、生活者の視点から捉えることの難しさを学びました。

患者さんにとって必要な援助は何か、それはなぜ必要なのか、たくさん悩み考えました。そのために、患者さんとのコミュニケーションだけでなく、表情や様子からも情報収集を行い、様々な方向から患者さんを見ることで、よりその患者さんに合った援助を提供することが出来ました。

またグループメンバーで意見交換を行い仲間の大切さも学びました。

今回私は、患者さんが自立し退院後の生活に繋げる援助を行うことの大切さを感じました。そして、援助後の患者さんの笑顔と「一生忘れない」という言葉。この先私を支えてくれる言葉となると思います。この経験と言葉を胸に、素敵な看護師になれるよう今後も頑張りたいと思います。



### 実習体験記(コミュニティケア実習)

伴 実乃里

私はこのコミュニティケア実習で、様々なことを学ばせていただきました。

地区視診ではその場所を地図で見るのではなく実際に歩き歩いてみることで、地図だけでは分からなかったその地域特有の雰囲気や問題点が明確に感じられました。また直接地域に住んでいる人に話を聞くことにより、多角的な視点から観察することが重要であると感じました。

保健所では1日の保健師の働きを知り、積極的に健康に対して興味を持ってもらえるように企画の立案・啓発活動を行い、市民の方々が健康に生活できるように、予防活動を行うことが大切であると感じました。

実習で学ばせていただいたことを忘れずに今後も学んでいきたいと思います。



# 海外研修

本学では、平成20年3月にアメリカのカリフォルニア州立大学ロングビーチ校との学術交流協定を締結し、毎年30名の学生が同校を訪れて海外研修を実施しています。この海外研修のプログラムは、英語を学ぶ学術研修とアメリカの看護について学ぶ看護研修から構成されています。今年度は、2年生30名が8月2日から8月17日までの2週間、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校での海外研修に参加しました。生活スタイルや習慣も異なる生活文化を肌で感じるとともに、海外ならではのよりよい友情関係を築くことが出来たようです。

私は以前から海外に興味があり、「海外研修に参加し、アメリカの文化に触れてみたい」と思っていました。あまり英語に自信のない私は、スーパーなどでの買い物で言葉が通じるとても心配でした。しかし、拙い英語を理解してもらい、コミュニケーションをとることができた時、英語を話す楽しさに気づき、もっと英語を学びたいと思うようになりました。

またCSULB(カリフォルニア州立大学ロングビーチ校)では、平日は毎日英語の授業、午後からは現地の病院施設見学をしました。病院施設では、アメリカと日本の違いについて学び、さらにはアメリカで働く日本人看護師による講義もあり、私にとってとても刺激的な体験でした。

私は普段から洋画や洋楽が好きですが、実際にアメリカに行ってみると、そこには私の知らない世界があり、見るものすべてが新鮮で内容の濃い2週間でした。

休日にユニバーサルスタジオハリウッドに行ったことや、前述した病院施設見学やCSULBでの生活など、友達との旅行では味わえない体験をすることができ、この海外研修に参加できて本当に良かったです。また、今回2週間を共に過ごした30名とたくさんの思い出を作れたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

【田淵 真理】



僕は、約2週間、CSULB(カリフォルニア州立大学ロングビーチ校)での海外研修に参加しました。この研修に参加し、改めて海外における医療水準の高さを身をもって感じ、日本との医療制度の違い、アメリカの文化についても学ぶことができました。また、毎日の英語の授業で、現地の英語の先生とも仲良くなり、コミュニケーションを取り合うことに楽しさを感じられるようになりました。

研修中に誕生日を迎えたメンバーのパーティーをしたり、水族館や、ディズニーランドに行ったことなど様々な経験をすることができ、仲間たちとの絆が今まで以上に深まったいい研修だったと思います。2週間という短い期間でしたが、このメンバーと一緒に海外研修に参加することができてよかったと思っています。一生忘れられない思い出の一つになりました。

【西山 隼人】

8月2日(日)~8月17日(月)の16日間、平成27年度海外研修に行ってきました。学生は、国際看護事情の講義の中で日本とは異なる生活文化や研修先で学びたいテーマを明らかにし、研修に参加しました。事前学習の成果もあり、研修中は自ら質問や活発なディスカッションができていました。フリータイムには、市バスに乗り水族館やビーチに出かけるなどアメリカでの研修を通して積極的に学ぶ姿勢が身につけていました。また、2週間の集団生活ではマナーやコミュニケーションの大切さも学び、自己の成長につながったのではないかと思います。

【助教 小寺 直美】

# よん祭 よん祭

2015  
10/24 sat ▶ 25 sun

テーマ  
Smile Challenge

今年度で9回目を迎えた本学大学祭は、「よん祭」として、四日市大学と合同で10月24日(土)、25日(日)に開催しました。当日は、模擬店、ステージイベントだけでなく、子どもたちを対象とした緑日形式の「ちびよん」にも多くの来場者が集まりました。

また、今年から看護棟5階実習室を会場として様々な看護師体験ができる「ナースボランティア」が新たに開催され、こちらも延べ150名を超える参加者があり大きな賑わいを見せました。本学祭のテーマである「Smile Challenge」のとおり、参加者全てが笑顔になった二日間でした。



今年のよん祭では昨年までの企画に加え、他大学の学生による模擬店の出店や、私たち看護学生による看護体験企画を取り入れたことでさまざまな年齢層の方に四日市看護医療大学の魅力を感じていただけたかと思えます。

また、2度目の参加となる今年は実行委員長、副委員長という立場でそれぞれ参加をしました。先輩についていくことが精一杯だった昨年と違い、全体をまとめる立場となった今年は改めて大学祭の企画、運営の難しさを感じる場面も多々ありましたが、何とか無事に成功させることができました。これは学祭実行委員をはじめとした仲間たちの協力なしではできなかった事です。みんなで力を合わせる事の大切さに気づき、大学祭に携わった方全てに感謝をするとともに、仲間たちと作り上げた大学祭は一生忘れる事のできない素敵な宝物となりました。

大学祭実行委員長 学友会会長 2年生 田淵 真理 / 学友会副会長 2年生 大谷 麻那美

## 平成26年度「学生」×「地域」の取組事例発表会(三重県主催)

### ◆ ベストプラクティス賞を受賞/「災害支援の会」

ベストプラクティスコンテスト&大学・地域連携シンポジウム(三重県戦略企画部主催)が3月1日(日)午後1時からアスト津4階アストホールにおいて開催されました。このコンテストは、学生が地域と日頃取り組んでいる活動の成果を発表するもので、書類審査を通過した県下高等教育機関13団体(皇學館大3、鈴鹿高専2、四日市看護医療大1、四日市大1、三重短大1、近大高専1、鈴鹿短大1、三重大1、三重短大・三重大1、三重大・三重県立看護大・鈴鹿医療科学大1)によるプレゼンが行われたのち審査が行われました。本学からは、サークル「災害支援の会」が発表し、ベストプラクティス賞を受賞しました。



災害支援の会代表/岡本藍里さんのコメント

「出場に当たってサークル活動と地域との連携を調べなおし、私たちの活動は、多くの人や団体の協力によって成り立っていることを再認識することができました。これからも、「地域のために何ができるのか」を意識しながら主体的なサークル活動を行っていきたく考えています。」

本学:ベストプラクティスコンテスト参加団体  
災害支援の会

## よっかいちキャンサーリボン実行委員会の紹介

よっかいちキャンサーリボン実行委員会は、がん検診の受診啓発をはじめとし、人々の健康意識の向上を目的に啓発運動の企画、運営をしています。

組織は、四日市市健康づくり課、四日市羽津医療センター、全国健康保険協会三重支部、乳癌患者友の会[すずらん会]、タウン誌YOU編集部、四日市看護医療大学より形成されています。

本学の活動として、ボランティア部を中心にがん医療に興味を持つ学生が積極的に会の司会や運営に参加し、市民の健康に関与する運動に携わっています。

この会は5年前より発足し、最新医療の知識と実践、献身の重要性について多彩な企画運営に学生は参加しています。これまでがんを体験し乗り越えられたジャーナリストの鳥越俊太郎氏、漫才師の宮川花子氏、積極的な健康管理をされている元マラソン選手の瀬古利彦氏、四日市羽津医療センター名誉院長の松本好市氏、三重大学病院健診センター長の小林茂樹氏、最新医療の阿波粒子線医療センター顧問等々多くの企画を担当してきました。



## こころの健康づくり講演会

四日市市保健所保健予防課主催の「こころの健康づくり」講演会に精神看護学を修了した3年生を中心に、講演会の運営の準備・実行・評価を行いました。

4年前より、精神科医・香山リカ氏、通称夜回り先生・水谷修氏、女優・カウセラー石井苗子氏等の講演会の運営に参加してきました。学生の積極的な行動に保健所職員や来場者の方々にも賞賛していただきました。

# 平成26年度 国家試験・就職進路状況

第5期卒業生(平成27年3月卒)

## 社会的評価が高く、先端的な医療を提供している病院に就職

### ◆ますます広がる看護職活躍のフィールド

2011年3月に卒業生を送り出して以来、毎年就職率95%以上という結果を出し、ほぼ全員の学生が、保健師・助産師・看護師として第一希望の病院などへ就職しています。

就職先としては、実習先の病院や国立病院機構への就職が多く、本学の教育と就職が密接に関わっていることを裏付ける結果となっています。

地域別では、三重県内施設に6割以上が就職を決める結果となり、今年度も看護職の充足率が全国平均を大きく下回っている三重県や四日市市からの期待に応えることができました。

医療技術の飛躍的進歩は臨床の現場を大きく変えつつあります。看護の分野でも高度化し、専門化しています。特定分野の看護の経験を積み認定看護師になる道、大学院に進学し研究者、専門看護師をめざす道もあります。また、高齢化社会を迎え、地域看護の必要性は高まっており、保健師の役割も重要になってきています。このことから、今後、卒業生の更なる幅広いフィールドでの活躍が期待されます。



就職説明会の様子(学内教室に於いて)

## ..... 平成26年度 国家試験合格率 .....

- ◆看護師:92.9%(受験者113名/合格者105名)
- ◆保健師:98.2%(受験者112名/合格者110名)
- ◆助産師:100%(受験者10名/合格者10名)
- ◆看護師・保健師・助産師3資格同時取得者:10名

### 平成26年度 就職・進路状況(平成27年3月卒業生)

(単位:人%)

項目	卒業生	就職			その他
		就職希望者	就職者	就職率	
合計	113名	109名	104名	95.4%	4名

### 平成26年度 就職先(平成27年3月卒業生)

施設名順不同

地域別就職先			
三重県	市立四日市病院(28名)・三重県立総合医療センター(17名)・三重大学医学部附属病院(6名)・伊勢赤十字病院(4名)・済生会松阪総合病院(3名)・四日市羽津医療センター(2名)・松阪中央総合病院(2名)・鈴鹿回生病院(2名)・みたき総合病院(1名)・市立伊勢総合病院(1名)・松阪市民病院(1名)・ヤナセメディケアグループ(保健師)(1名)		
愛知県	藤田保健衛生大学病院(4名)・海南病院(3名)・名古屋掖済会病院(3名)・藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院(2名)・名古屋セントラル病院(2名)・名古屋第二赤十字病院(2名)・名古屋市立大学病院(2名)・小牧市民病院(1名)・名古屋第一赤十字病院(1名)・豊橋市民病院(1名)・江南厚生病院(1名)・名古屋ハートセンター(1名)・名古屋徳洲会総合病院(1名)		
三重県・愛知県以外			
東京都	立川相互病院(1名)	静岡県	聖隷浜松病院(2名)・静岡赤十字病院(1名)
神奈川県	川崎市立井田病院(1名)	大阪府	市立吹田市民病院(1名)・大阪府済生会富田林病院(1名)
兵庫県	神戸市立医療センター中央市民病院(4名)・兵庫県立尼崎病院(1名)		

## 地域研究機構の目的と活動について

2014年4月に、学校法人暁学園の所管であった四日市地域研究機構を、本学の附置機関「地域研究機構」として名称を変更し、「地域研究センター」「産業看護研究センター」「看護研究交流センター」と3つのセンターを持つ組織に改めました。

その活動として地域研究センターは、大学設置の経緯から四日市市との協働等により、学術研究の多様な視座からの地域社会への積極的な貢献を行っており、次に産業看護研究センターは産業看護のシンクタンクの機能と地域への情報発信に努め、新しく出来た看護研究交流センターは、研究のみならず、臨床施設との交流、

地域との交流、卒業生との交流など、幅広い活動の実践に重点をおいています。

これまでも「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」を使命としてきましたが、今後も「地域研究機構」を通じて、その社会的要請を受けとめ、地域社会との連携を一層深めていきたいと思ひます。

ホームページ

<http://www.y-nm.ac.jp/yrro/>

## 訪問看護師養成&スキルアップ研修

本学では平成23年度より四日市市の委託を受けて訪問看護師養成研修を行っており、本年で5年目となります。これは離職した潜在看護師さんや現職の病院看護師さんなどを対象に、近年需要を増している訪問看護師を養成する研修です。昨年までに70名

ほどが受講しています。また、昨年度からは、同じく四日市市の委託により、現職の訪問看護師さんを対象に、そのスキルアップを目指した研修も行っています。

このような活動を通して、少しでも地域貢献できればと思ひます。

## 河野啓子賞、宮崎徳子奨学金について

平成25年度に学生の学修意欲及び社会貢献意欲を高め看護専門職の育成に資することを目的に、「河野啓子賞」「宮崎徳子奨学金」が設立されました。「河野啓子賞」は、本学開学にあたり多大な功績のあった初代学長河野啓子先生からのご寄付をもとに、本学学生の模範となる卒業予定者を表彰いたします。また、「宮崎

徳子奨学金」は、現学長補佐(前学科長・学生支援センター長)宮崎徳子先生のご寄付をもとにした奨学金が学業成績優秀者へ給付されます。

今年度の河野啓子賞表彰については平成28年2月に授与式を予定。宮崎徳子奨学金授与式は、去る6月24日(水)に行われました。



## 四日市看護医療大学 同窓会

7月18日四日市都ホテルにて開催されました四日市看護医療大学同窓会開設記念パーティーにたくさんの教職員、卒業生にお集まり頂きありがとうございました。日頃、仕事上で感じる意見を交換し合える場となったと同時に、懐かしい顔ぶれと再会し学生時代の思い出話に花が咲いたことかと思えます。

わたしたち一期生は卒業して5年が経ち、看護職として病院、地域、さまざまな看護の現場で日々、職務に勤しんでおります。社会人として鍛えられた1年目、現場になれてきた2年目、3、4年目ではプリセプターとして新人とともに成長し、教育される立場から教育していく立場になっていきました。そして一人でも多くの後輩が看護の良さ、患者さんと向き合う大切さに気付いて成長してほしいと指導しております。その中で自分たちも現場で患者さんから学び、後輩指導をしながら成長させてもらっています。

看護職は人の生と死を目の前にしながら働く特殊な仕事だと思います。人の終末というつらく悲しいことに直面し、患者家族と同じように胸を締め付けられる思いをすることもあります。しかし、その反面で病気でありながらも懸命に生きる患者さんや何度も危機的状況にあった患者さんが回復・退院していく姿をみて、自分たちの看護が患者さんの人生を支えているのだとひしひしと感じます。



看護は、他の仕事ではなかなか経験できないやりがいのある仕事だと思います。自分たちひとりひとりの看護がどこかで人の人生を支えているのだと誇りをもって働いていく所存です。

看護は、他の仕事ではなかなか経験できないやりがいのある仕事だと思います。自分たちひとりひとりの看護がどこかで人の人生を支えているのだと誇りをもって働いていく所存です。

【同窓会役員 小嶋 麻里(平成22年度卒業)】

## 菰野町と包括連携協定

7月10日、本学にて「菰野町と四日市看護医療大学との包括連携協定書」調印式を執り行いました。

この協定は、菰野町と四日市看護医療大学が、包括的な連携のもと相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成及び学術の振興に寄与することを目的としています。菰野町の保健・医療・福祉の向上はもとより、教育・文化の振興や生涯学習および防災対策の推進、地域に貢献しうる人材の育成、健康的な地域づくりやまちづくりなど、幅広い分野において連携協力するものです。石原町長は「温泉を抱える観光地として、健康づくりを中心とした取り組みに関して知識を借りたい」と抱負を述べられ、それに対し丸山学長は「地元扎根す大学として自治体との連携は必要不可欠。菰野町の目指す健康的なまちづくりに教員や学生の参加を促し、相互に活発な交流をしていければ」との意見交換もなされました。



## 本年度 学位記授与式

平成28年3月10日(木) 四日市都ホテルにおいて挙行する予定です。